



北東北三県・北海道ソウル事務所だより（2023年5月）

報告者：所長 佐藤 雅代

■韓国の主なトピックス（5月）

○日韓関係の動き

2023年5月は、日韓関係にとって大変重要な1か月間でした。2日の岸田首相来韓決定の発表に始まり、7～8日の日韓首脳会談の期間においては、行事日程や岸田首相・尹大統領それぞれの発言内容、福島第1原発処理水に関する韓国視察団の受け入れ決定、尹大統領の広島G7サミット参加決定などの話題が各メディアで大きく報道されました。

日本にいと韓国の反日派デモの様子ばかり報道される傾向がありますが、No Japan運動が終わった現在は、与党系の親日派デモも行われており、今後のためには米国・日本との連携が必要だ、とのメッセージを発信しています。今回の首脳会談の成果や岸田首相の発言への評価も各媒体の立場によって様々で、この国における（政局とも結びついた）日本との関係の重要性と複雑さを、改めて学ぶ機会となりました。

会談終了後も韓国ではしばらく福島視察団に関する報道が続き、その後広島G7サミット（5月19日～21日）と韓国視察団の来日（5月23日～24日）に話題が移るなど、5月の韓国では、報道で日本関連の話題が占める分量が極めて高かったと言えます。

○福島第1原発処理水放出計画の影響

日本政府が年内予定と発表した福島第1原発処理水の海洋放出については、韓国政府というよりむしろ、韓国の一般消費者が非常にセンシティブになっている状況です。

政府や保守系メディアでは、物事を科学的に判断するよう国民に呼び掛けようとする動きがあるものの、野党や革新系メディアの発言内容には、消費者の不安に乗じて政府を糾弾したい意図も垣間見えます。

最近（6月上旬）では、こういった消費者の不安を背景にして、海水から作る国産天日塩の価格が高騰しており、スーパーで売り切れる状況が発生しています。（右写真）

こういった消費者の漠然とした不安感による風評被害は、立場が逆であれば日本でも生じうるものと思われ、そのこと自体はやむを得ない面もあると考えますが、今後の動向によっては北東北3県・北海道地域全体の物産事業への影響が懸念されることから、今後も日本政府によるさらなる安全性の訴求や韓国政府の冷静な対応を期待したいところです。

※なお、こういう事象がある中でも、日本産の水産物を楽しんで食べてくださる韓国の方はたくさんいらっしゃいますので、その点は誤解のないようお願いいたします。



○東北・北海道行き航空便の最新状況

航空便の情勢については、明るい話題が続いています。

4月28日のアジアナ航空の仁川～仙台線（週3往復）の再開は、仙台と近い東北3県においても大変喜ばしいニュースでした。さらに5月には韓国の皆さんの旅行熱に押されて、北海道への以下の増便が発表されています。

こうした動きが定着していくためには、日本からのアウトバウンドの増も重要です。ぜひ、この機会に北東北・北海道からも多くの方にご利用いただきたいと思います。

<最近発表された増便情報>

航空会社	路線	現在（5月末時点）	増便後
大韓航空	仁川～新千歳	週7往復（1日1往復）	週11往復（火水金日は2往復）7/18～
アジアナ航空	〃	週5往復（火水木土日）	週7往復（1日1往復）7/10～8/31 ※7/1～9は金を除く週6往復
エアソウル	〃	なし	週7往復（1日1往復）7/7～8/31
エアプサン	〃	なし	週7往復（1日1往復）6/23～
	仁川～釜山	週3往復（火金日）	週7往復（1日1往復）6/15～

○はじめてのミサイル警報

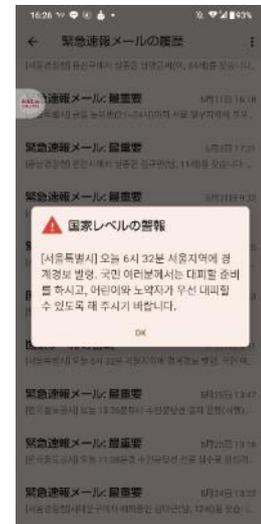
韓国に赴任してから、ほぼ毎日ソウル特別市からの「緊急速報メール」を受信しています。内容はPM2.5や黄砂の大気汚染に関するものや、災害に関する注意報や、失踪者の目撃情報を募るものなど。しかし、北朝鮮のミサイル発射に関しては、5月末までは緊急速報も出ず、報道でもほとんど取り上げられることはありませんでした。

北海道では北朝鮮が飛翔体を打ち上げるたびにJアラートが鳴っており、こちらに来てからもネットニュースなどで状況を確認していましたので、この国ではあまりにもミサイル発射が日常のこと過ぎて警報を出さないのかな、と不思議に思っていました。

しかし、5月31日の発射では急に国家安全警報が発令され、ソウルの街はちょっとした騒ぎになりました。（事務所のスタッフも、生まれて初めて携帯電話でミサイルに関する警報を受け取ったとのこと。）この日は午前6時41分にソウル特別市全域に避難準備を呼びかける警報が発令されたのですが、最終的に誤報だったということがわかりました。

韓国政府としては、今回の出来事をきっかけに警戒警報システムの全面見直しを予定しており、その際には日本のJアラートも参考にするとのことです。

（右：当日発信された緊急速報メールの画面。「本日6時32分、ソウル地域に警戒警報発令。国民の皆様は避難する準備をしていただき、お子様とお年寄りがまず避難できるようにしてください」とのみ記載されており、理由などは書かれていませんでした。）



■ソウル事務所の主な行事・業務（5月）

- ・ 5月12日 JR 北海道来所対応（佐藤、張次長）
- ・ 5月14日～17日 秋田県韓国バイヤー招聘事業対応（金次長）
- ・ 5月18日 秋田県誘客推進課来所（佐藤、張次長）
- ・ その他面談（事務所来所・所長訪問の合計）： 11件
- ・ 視察：3件（ソウル国際観光展、SEOUL FOOD、SSG フードマーケット）
- ・ ホームページ・SNS 情報更新：随時

※事務所ホームページ <http://www.beautifuljapan.or.kr/>



（左写真：JR 北海道様、右写真：秋田県誘客推進課様）

■韓国インバウンド事情：旅行熱さらに高まる5月

○「企業旅行」の需要復活

以前から、韓国の企業では「インセンティブツアー」（報奨旅行）が盛んに行われています。また、日本と比べても海外視察旅行に積極的です。日韓渡航が自由になって以降、早速日本を渡航先に検討している企業が増えているようで、5月だけでも、当事務所にこういったグループ旅行のための視察先に関する照会が数件ありました。

具体の事例は書けませんが、こういった旅行においては小さくても数十名、大きなものでは千人を超すグループが来日し、数日間滞在して、勉強会や視察に加えて観光やゴルフを楽しむといった構成になっており、その開催にあたっては、参加人数を収容できる客室数に加え、会議が可能な宴会場設備や研修に適した視察先が必要になります。

この需要が北東北3県・北海道にとって重要な点は、適した宿泊・会議施設とニーズに合った視察先があれば、地域アクセスや一般的な観光資源が多少弱くても、それなりの規模のツアーを呼び込めるからです。（この手のツアーは貸切の車かバスを手配するのが一般的なため、公共交通機関の難点もカバーしやすくなります。）

ソウル事務所では、昨年度北東北3県・北海道のインセンティブツアー資源を紹介するガイドブック（右写真）を作成し、今年度から本格的に韓国の旅行エージェントへのご紹介を行っています。しかし、まだまだ各地域には、私どもが知らない先進的な（あるいは、興味深い）視察先が眠っているのではないかと考えています。特に、SDGs、環境・エネルギー分野、



人口減地域の活性化のための取組に関しては日本のほうがやや先行していると思われるため、韓国企業の視察のニーズがありそうです。北東北3県・北海道内で海外からの視察を誘致したい施設等がありましたら、是非ソウル事務所へ情報提供をお願いします。

○ソウル国際観光展にみる、韓国人旅行者ニーズの注目度

5月4日(木)から7日(日)にかけて開催された「ソウル国際観光展」(会場;COEX Cホール)を視察してきました。多くの国では国単位でブースを出しているのですが、日本は政府ブースがなく、民間と自治体のブースで構成されていたのが印象的でした。

(左から 米領グアム、キルギス共和国[中央アジア]、ギリシアのブース)



国別ブースは特に東南アジア、中央アジア、アフリカ諸国からの大型ブースの出展が多くみられ、韓国の方に地域を知ってもらい、誘致しようという意欲を強く感じました。

一方、日本の自治体ブースは小型ブース中心でしたが、どこも大変賑わっており、「行きやすい海外旅行先」としての人気のほどを感じました。

(左から クレア[自治体国際化協会]ブース、長崎県ブース、熊本県ブース)



ちなみに私ども北東北3県・北海道ソウル事務所は今回出展していませんが、星野リゾート様が北海道の名を冠してブースを出してくださったほか、ハナツアーさんのブース装飾でロンドンとグアムの間には北海道を挟んで掲示していただいております、他の自治体事務所から大変羨まれたことをご報告いたします。



(左:「星野リゾート 北海道」ブース、
右:ハナツアー社ブースの外壁)

■韓国物産事情：ソウルの小売店を歩く

○バラエティに富んだ韓国の小売業態

韓国は市場文化の国、というイメージがある方も多いのではないのでしょうか。事務所に近いソウルの南大門市場を始め、韓国にはたくさんの魅力的な伝統市場が残っており、様々なB級グルメや買い物を楽しむことができます。



一方で、日本では規模縮小が続いているデパートも、韓国ではまだまだ元気です。ロッテ（32店舗）、現代（16店舗）、新世界（12店舗）、ギャラリア（5店舗）など多数店舗があり、集客を争っています。



では、スーパーやコンビニはどうかというと、これもかなり数があります。スーパーはロッテマートやeマートなど大手グループの大型スーパーに加え、地域の中規模スーパーなどもあります。コンビニは、日本に比べて小規模な店舗にぎっしり品物が詰まっており、近い範囲に何店舗も集まっていたりして、各店の競合が心配になるほどです。



さらに、世界的な趨勢と同様、韓国でもコロナ禍の間にネット通販が独自の進化を遂げていました。ユーザー数が韓国でNo.1（2600万人以上）のcoupang（クバン）は、日付が変わる前にオーダーすると夜明けまでに届けてくれるロケット配送によって圧倒的な人気を誇っています。

このように、日本に比べても多様な形態の小売店がしっかり残っている背景については色々と仮説を立ててはいますが、今後検証のうえ、客観的なデータを加えて改めてレポートできればと思っています。

4道県ではこれまでも韓国バイヤーの招へい事業を行っていますが、本当は、メーカーの皆様にも現在の韓国の小売の現場をご覧いただいたほうが、商談成立につながりやすくなるのではないかと考えています。北東北3県・北海道ソウル事務所では、韓国市場への進出のため現地調査を希望される事業者さまのご支援も行っていますので、ご希望がありましたら各道県の担当部署へお問い合わせください。

（右写真上：ソウル最大の市場、南大門市場。中：狎鷗亭のギャラリア百貨店。中も大変洗練された内装です。）

下：市内スーパー。最近韓国でもワインを飲む方が増えており、大きなワインコーナーがあります。）

■編集後記



5月8日からは日本側の水際対策も終了して、日本人はこれまで帰国時に義務化されていた「Visit Japan Web」への検疫情報の事前入力（又は陰性証明書の提示）が不要になりました。（韓国のQ-CODEはまだ使われていますが、Q-CODEがなくても、機内で黄色い申告表に体調を記入すれば入国可能です。）

いよいよ、航空券とパスポートさえあれば海外に行ける世の中が戻ってきました。

この「事務所だより」を書いている現在、6/13のBTS（防弾少年団）のデビュー10周年を記念した様々な関連イベントが企画されていることから、全世界のARMY（BTSのファン）がソウルに集結しており、ソウルのホテルには全く空きがない状況とのこと。

南山のソウルタワーはBTSカラーの紫色に染まり（写真）、週末には、BTS出演イベント汝矣島（韓国の国会議事堂がある漢江の中州）で開催され、大規模な花火大会も開催されました。街を歩いていると耳に日本語が飛び込んでくることもだんだん増えてきています。

冒頭のトピックスに書いた通り、日韓の航空路線も増えつつありますので、いよいよ夏に向けて両国の往来が活発化していくでしょう。北東北3県・北海道の皆様は、まさに今韓国からのお客様が一気に増えていることを実感されているのではないかと思います。ソウルの街の賑やかな雰囲気も、是非体験していただきたいです。

仁川空港から仙台や新千歳へは、フライト時間で約3時間。国内旅行に行くのとあまり変わらない感覚で旅することができます。夏休みのご旅行に、是非検討されてはいかがでしょうか。